

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773500030		
法人名	社会福祉法人 憲章会		
事業所名	東雲の丘 指定認知症対応型共同生活介護事業所 1号館		
所在地	南城市大里字大城1392		
自己評価作成日	平成 26年 11月 10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4773500030-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年 12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・敷地が広く自然に恵まれてる ・2ユニットあるためお互いの入居者が行き来でき交流がもてる環境である。 ・併設特養との連携をとり健康管理や栄養管理ができる。 ・それぞれの夜勤者が配置されているため、緊急時の対応の連携が取りやすく安心に繋がっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度、理念にある「地域との交流」に注力し、地域ミニデイサービスに定期的に参加したり、施設見学を兼ねてミニデイの参加者を事業所に招いての地域住民との交流を始めている。今後も交流する地域を増やしていく計画である。地域の婦人会から南城市の福祉情報誌「なんじいポッケ」を通じて勉強会の依頼があり、市民向けに「認知症とは何か？」を説明する等、事業所の力を活かし地域に貢献している。毎年恒例の「ふるさと訪問」を今年度も実施し、入居者の生まれ島、石垣島、竹富島へ1泊2日の旅行を企画し実施するなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。法人特養施設では、詩会、絵画教室や習字教室等が開催され、グループホーム入居者の参加を支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 27年 2月 2日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もがわかりやすい言葉で理解しやすいようにし目のつく場所へ掲示している。また日頃より声かけ意識している。	地域密着型サービスの意義を踏まえ作成され、事業所内に掲示している。昨年の評価で課題となったプライバシーについて、理念の「個人を尊重」の意味を職員間で再確認している。管理者は、入居者一人ひとりの個性を大切に考え、ミーティングやケアの場面で、職員と共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へのドライブへ出かけたり、地域のミニデイサービスとの交流を行っている。	地域交流会(各地区ミニデイ)に入居者、職員が参加し出向くだけでなく、地域の方から「施設を見学したい」の要望に答え、法人施設での交流会を実施している。毎年課題であった地域との交流を、今年度は地域交流会を3地区実施し、今後地区を増やしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・家族の方からの相談や他事業所などの違いなどの問い合わせなどにも説明を行っている。 ・地域からの介護についての勉強会へ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・法人内の地域密着型サービス合同で開催しており、行政や入居者、ご家族、他事業所からの参加を依頼するなどしている。	運営推進会議は年6回併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催し、参加しやすいよう工夫しているが、利用者、家族の参加は少なく地域からは社協職員だけの参加である。会議では、利用者の状況や活動状況を報告しているが、ヒヤリハット、事故報告は行われていない。	民生委員の会議に出席する等接触を試みているので、地域の理解と支援を得るためにも地域からのメンバーが増える事が期待される。また、報告内容の検討も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や保険更新時、また地域ミニデイサービスとの交流会の取り組みなど協力をしている。	窓口へは更新時に出向いている。法人が認知症サポーターの事業所として指定を受け、市の委託で郵便局員向けのサポーター養成講座に職員を派遣している。市の福祉情報誌「なんじいポッケ」を通じて勉強会の依頼があり、「認知症とは何か？」を市民向けに説明している。市から緊急避難時の受け入れを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・法人全体での身体拘束廃止会議を毎月1回行い、ケアの共有、相談などを行っている。 ・見学時や事前説明、入所時など家族への説明を行い、理解・納得をされている。 ・夜間以外は玄関や居室のはき出し口には鍵をかけずに入出入り自由になっている。	法人の身体拘束廃止委員会に各ユニット1名が参加し、拘束の廃止に向けて取り組んでいる。転倒の危険がある利用者には、家族に説明しベッドの手すりに鈴をつけ対応している。スピーチロック(言葉での行動抑制)について職員にアンケートを実施し、ケアの振り返りの機会としている。	

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的暴力、言葉の暴力などのないようにケアの際には気をつけている。また、法人全体での研修なども行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での園内研修にて権利擁護・成年後見人について研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する考え方や取り組み、退所を含めた対応可能な範囲などを説明し理解・納得されている。また、疑問があればその都度尋ねるようにお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・生活の会話の中で入居者の要望などを聞きとれるように心がけている。またご家族の要望などは年2回開催している家族意見交換会や面会時などに話し合っている。 ・投書箱も設置している。	入居者からは生活の中で意見や要望等を聞き、家族からは面会時や年2回の家族交流会の際に意見等を聞く機会としている。介護相談員を受け入れ、第三者に意見を表す機会がある。家族からは「庭へ出て日光浴をしながらのお茶会を開いたら？」と意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月全体職務会、介護部門会議がある。 ・ユニットミーティングも開催し職員から直接意見が聞けるようにしている。	職員の意見等は月1回のミーティングで聞く機会としている。「昼食の配食の運搬について、業務に負担がある。」との意見に業務改善している。入居者の「脱オムツ」について、皮膚のかぶれやコスト面の見直しの提案があり、業者に研修会の開催を依頼し、排泄パターンやパット選びを検討し取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為に各々にあった勉強会など参加し向上心を持って働けるようになっている(併設特養にて開かれている)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内での園内研修は皆が勤務に合わせ受講できるように数回に分けて行われている。 ・園外研修への参加も行っており勤務表へ反映させている。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県グループホーム連絡会があり、定期的に会議やスタッフ研修などに参加し質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み、相談があった場合には主の状態を確認するため実態調査を行い職員と確認しあっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っている事を家族から聞き取り、お互いの意思・要望などを確認しながら関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設で特養を活かし早急な対応が必要な場合相談者によっては他事業所の紹介を行うなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で出来る事、出来ない事の確認をしながら声かけ促す事で自信をつけてもらい信頼関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時には日頃の様子を報告しながら積極的にコミュニケーションをとるようにし信頼関係を築くように努めている。 ・毎月一度、食量やバイタル等が確認できるように報告書を送付している。 ・受診や落ち着きがない場合にも協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域の行事(敬老会など)に出かけるようにしている。 ・ご家族と一緒に買い物や親戚訪問などをされている。 ・地域のミニデイサービスとの交流会もっている。	地域の敬老会への参加や、地域ミニデイとの交流を通じて馴染みの関係継続を支援している。法人で開催している教室(習字、絵画)に参加し、デイサービス利用者や特養入所者との馴染みの関係を継続している。今年、「ふるさと訪問旅行」を企画し、石垣島、竹富島出身の方の生家を見学するツアーを実施している。	

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・リビングにて過ごされる入居者が多く、家族の話や出身地の話など各々に会話を楽しんでいる。また家事(洗濯たたみ・野菜のつくろい)など出来る事を協力し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所への移動した方を訪ねるたり、ご家族との挨拶を交わしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・生活の会話の会話の中で聞き取りながら要望に沿うように努めている。 ・意思表示ができない方も声かけ出来ない表情の変化をくみ取るよう努めている。	入居者の希望等は直接聞いている。ゆったりとした時間を過ごせるよう、1対1になる入浴時などの機会を通し、思いの把握に努めている。言葉で表出する事が困難な場合には、表情や仕草を汲み取り支援している。「自宅に帰りたい」「畑を見たい」などの要望に自宅の仏壇に手を合わせたり、畑の様子を見て安心している方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に家族から生活の様子を伺ったり、親戚・知人などの面会時に話を伺うなどして少しでも継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の生活リズムを把握するようにし、出来る事出来ないことを職員間で共有し安心して生活を送ってもらえるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人、家族の要望や職員からの報告など日々の記録を確認しながら目標を立てるようにしている。 ・身体状況に変化がある場合にも検討するようにしている。	モニタリング、介護計画は半年に1回定期と、入居者の状況変化に応じて随時に見直している。担当者会議で入居者、家族、担当職員の意見を聞き介護計画、「介護・看護個別援助計画」を作成している。利用者の力を引き出す個別計画になっているが、実施記録がデータと混同し個別支援や特記事項が解りにくい。	個別援助計画に沿って実践されているか、職員間でケアの情報共有ができるよう端的な実施記録が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・入居者の変化や職員への気づきを記録し情報を共有できるように居ている、 ・勤務始動時には日誌の確認を行い入居者の状態を把握するようにしている。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・受診時や外出時等には福祉車両の貸し出しや送迎の対応、家族の急用時の受診対応。 ・家族からの宿泊希望時の対応 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・併設特養での行事参加や近隣への散歩、外出等などへの声かけを楽しみが見いだせるように努めている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>入所時に確認行い、本人・家族の要望するかかりつけ医を継続している。</p>	<p>これまでの馴染みのあるかかりつけ医を継続して受診している。原則家族が受診に同行することとしているが、緊急時等に家族が対応できない場合には管理者等が同行している。受診結果は家族より口頭で受けている。誤薬防止のため薬のセッティングは看護師が行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・併設特養の看護師と入居者の情報を共有し、アドバイスをもらっている。 ・家族への状態報告行い、受診の検討などを相談している。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>入院時には容態を確認しながら家族・の看護師・病院・相談員と話し合い、長期入院にならないように努めている。</p>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合には終末期のあり方についても組織機全体で勉強会を行い情報の共有を図っている。 ・実際に看取り介護を行う際にはご家族の要望などを確認しながら、再度看護師との勉強会を持っている。 	<p>重度化や終末期の指針があり、家族等へは利用開始時やADL低下時等に説明している。医療機関と連携を図り、今年度は1件看取りを実施している。終末期ケア対応マニュアルも整備され、職員は法人内研修の他職員間でも勉強会を持ち、ケアへの不安解消に取り組んでいる。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内での研修を行っている。 ・隣接するグループホーム職員や併設特養看護師に連絡し対応している。夜間帯は併設特養の宿直との連携を図っている。 		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防避難訓練を昼夜を想定し実施している。また併設である特養や小規模多機能事業所、高齢者共同生活住宅などの職員の協力体制が整っている。	災害対策は事前に消防署へ訓練の連絡をし、昼夜想定で2回避難訓練を実施している。毎回訓練後の反省会で、評価すべき点や課題を共有し、次回の訓練に活かしている。訓練時には、法人内他施設から応援協力者が参加している。防災設備の点検や備蓄等にも取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・排泄への声かけはさりげなく行うようにしている。難聴の方には耳元で声かけを行っている。 ・入居者への声のかけ方など注意している。	今年度事業所の理念「個人を尊重する」について、職員間で改めて振り返る機会を設けている。管理者は、入居者一人ひとりに合わせた声かけに配慮し、個人の尊厳を損なわない対応に努めるよう職員に伝えている。「高齢者の権利擁護とプライバシー保護」について職員研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常的に意思決定できるような声かけを心がけている。 ・本人の嗜好や入浴などを個々に確認し要望に沿う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・起床時間、食事時間など個々に合わせながら対応している。 ・外出支援も要望・体調に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節感にあった衣服選びができるように確認しながら支援している。 ・理美容室の利用も行っている。 ・行事などへの参加は本人への説明をし一緒に選びながら準備を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・朝、夕食はグループホームにて調理をしているので葉野菜のつくろいものなどをお願いしている。 ・献立は管理栄養士の考えたものになっているが、要望に応じて変更も可能。 ・テーブル拭き、下膳などをお願いしている。	食事は職員も入居者と一緒に、同じメニューを摂っている。畑で収穫した野菜はサラダ等で入居者等に提供している。入居者はもやしのみげとり等のごしらえを行っている。入居者毎の食事の様子を繰り返し観察する事で、それぞれに合う食事形態を確認し、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士の献立のもとカロリー計算がなされている。食事摂取量の確認行い少ない方、水分量の少ない方などは併設特養の看護師を含め相談しながら対応している。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の洗浄の声かけを行っている。自力洗浄、一部介助など見極めながら声かけ促しをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら排泄パターンの把握に努める。	個別プランに自立を位置付け、「個別の夜間の排泄介助」等の情報も共有し取組んでいる。昼間は声かけによる誘導等により全ての入居者がトイレで排泄している。当事業所は、居室内においてポータブルトイレを使用しない方針としている。職員間でおむつは蒸れる等の意見で「おむつの勉強会」を企画して実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取量が少ない方には黒糖湯など甘味をつけ多めに取れるよう、また摂取形態も工夫をするようにしている。 ・顆粒の食物繊維を使用しながら便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・隔日入浴としているが毎日入浴・時間の調整など要望に応じて対応している。	入居者の3人は季節関係なく浴槽を利用している。一人ひとりのシャンプーやくし等が準備されている。これまで家族以外の支援では入浴を拒む入居者が同性対応を受入、職員とのコミュニケーションも図られている。在宅時の習慣で夕食前に入浴する入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・安眠につなげられるように体操や余暇活動への声かけ行い活動が多く出来るように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各々薬情報のファイルを準備していつでも職員が確認できるようにしている。 ・職員2名での確認行い、誤薬がないように努めている。 ・状態変化があれば併設特養看護師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯物たたみや野菜のつくろいなど個々の持っている能力に合わせて促しお願いしている。楽しみとやってもらうため無理強いはいはしない。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話の中で要望があれば近隣のドライブや散歩などを行っている。 ・陶芸教室や水彩画教室、音楽会への参加など促している。 ・季節に合わせ遠出の外出する機会を設けるようにしている。 	<p>入居者は玄関の出入り口や居室のドアの吐き出し部分から事業所の外に出て日常的に周辺を散歩している。気分転換を目的として入居者の誕生日に本人・家族・他の入居者と一緒にレストラン等に外食に出かけている。法人施設で行われている水彩画教室等の活動に参加する入居者もいる。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お小遣いを持っている入居者には売店など自ら支払ってもらうようにしている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆電話を設置しておりいつでも利用でき、またご家族へも番号を伝えいつでも取り次ぎができるようにしている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは入居者同士が自由にコミュニケーションが取れるようになっている。 ・玄関先にはベンチを設置している。 ・リビングの壁には季節に合わせた飾り付けをしている。 	<p>入居者同士の馴染みの関係に配慮しテーブルの位置を若干変えている。事業所は天井が高く木目調の造りで、スペースが広く取られ入居者の動線の妨げにならない環境である。室内等の換気にも留意し、加湿器も用意している。これまで玄関ドアが重く開閉時の負担があったが改善に取り組んでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは各々好きな場所で過ごされている。 ・いつでも居室に戻れ、一人になる時間がつくれる。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室はそれぞれが落ち着いていられるように家で使用していた家具を持ちこむようお願いしている。 	<p>居室内への持込みは家族に協力を求め、テレビや冷蔵庫が持ち込まれている。水彩画教室で本人が描いた下絵や家族との写真が居室の壁に飾られている。入居者によっては居室内で晩酌をする等、在宅時の生活環境を継続して支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・風呂場、トイレなどは目立つようにしている。また一人でも移動できるように家具の配置を工夫している。 		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773500030		
法人名	社会福祉法人 憲章会		
事業所名	東雲の丘 指定認知症対応型共同生活事業所 2号館		
所在地	南城市大里字大城1392番地		
自己評価作成日	平成 26年 11月 10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4773500030-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年 12月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域交流の事業所が隣接しているため、入居者がいききで交流しあえる。・夜間帯では隣接なので職員も安心であり利用者の安全にもつながる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 27年 2月 2日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすい言葉で職員全員が理解しあい日々、意識をしながら取り組んでおり、園内研修にも組み込まれている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会への参加や、自宅付近をドライブを行いながら繋がりを保っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座への声掛けや地域交流会での雑談の中に理解できるように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には利用者・家族・社協・包括支援センターの方々に参加してもらい、現況報告を行いアドバイスをもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域交流会の開催日程調整や、ミニデイの開催場所等の確認をしながら、協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠していないが、やむをおえない状況がある場合、家族に説明し同意をえている。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的暴力はもちろん言葉の暴力などもないようにケアの際には気をつけている。現在ないが、ミーティングを行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での園内研修で成年後見制度について研修内容としてくみこまれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する考え方や取組みについて退所を含めた対応、可能な範囲など時間をかけ説明を行い理解、納得されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族交流会で要望や意見、アドバイスまた、近況を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体職務会があり、その後にミーティングを行い提案や職員の思いをきくようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設特養で月1回の園内研修や園外研修派遣等スキルアップをめざし向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の園内研修はもちろん園外での講演会に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	園外での講演会やスタッフ研修などに参加しケアの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み相談があった場合には主の状態を確認し調査を行いスタッフ同士で話あい安心していただくよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っている表情、言葉のニアンスで声かけをし可能な限り改善できるようにはなしあう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設である特養を生かし早急な対応が必要な相談者にはよっては他事業所の紹介、その後の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中で気分の良い悪いかを見極め声かけしながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1度バイタル、食事量が確認できるように報告書を送付して近況報告をおこなっている。不穏時の受診時には協力してもらい受診している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1～2回の地域交流や部落のミニデイへの交流会に参加をして関係性を保っている。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時、おやつ時フロアで過ごす方が多く、お互いに体調や天気、気候の話をするなど雑談をしコミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅付近を立ち寄った際には顔だしをしようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の出来ない方には声かけをし表情の変化を読みとるようにし家族へ相談している。本人のにつかである晩酌を取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	近親者からの情報を得て生活環境が大きく変化しないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のそれぞれの生活リズムを把握し出来る事、出来ない事をスタッフ同士で共有し、安心して生活を送ってもらうように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望やスタッフからの報告など、日々の記録を確認しながら目標をたてるようにしている。身体の状態に変化がある場合にも検討を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の変化やスタッフの気づきを記録し情報の共有するようにしている。勤務始動前には入居者の状態を把握するようにしている。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉車両の貸し出しや通院時の送迎の対応、家族とのドライブ、受診時にも対応。家族からの宿泊希望時の家族の対応。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の特養への趣味活動への参加や地域交流会への参加。自宅付近や市内の観光地へのドライブで対応。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認を行い継続的なかかりつけ医と協力体制をとっている。訪問診療等もおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師と入所の情報を共有しアドバイスをもらっている。また、家族への状態などを報告し相談しながら受診などを検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には容態を確認しながら家族、看護、病院、相談員と共に話しあい長期入院ならないように体制作りしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族の意向を踏まえて重度化の対応方法について話しをしている。重度化、あるいは終末期のあり方について組織全体で勉強会を行い情報の共有化を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修、新人研修内で訓練を行っている。事故発生時、特に夜間帯は近隣するグループホーム、小規模との職員、併設の宿直との連携で対応できるようにしている。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設である特養や高齢者共同住宅マチュピチュなどの職員、隣接する施設等の協力体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換時、トイレ誘導時にはさりげなく耳もとで声かけを行っている。園内研修でもプライバシー保護に関する内容を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の嗜好や入浴時間の希望等を個々に確認し要望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間等は、個々に合わせながら対応している。天気や体調等に合わせた外出も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣服選びや外出、行事等には声かけをし一緒に選んでいる。併設の理容・美容室も利用し身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のメインデッシュは特養から提供となっている。朝食、夕食はグループホームで作るので入居者、にもやしのひげとりや葉野菜のつくろい物などをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもと、カロリー計算などされている。食事摂取量の少ない方には、栄養補助食での対応、ナースや管理栄養士とも相談し対応している。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力洗浄の方は見守りを行いきできない方へは介助で対応。夕食後には義歯をポリドントにつけ、清潔保持を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表での排泄パターンを把握に努めていて、オムツの業者からのオムツ勉強会を行い、その方に合ったオムツを使用し脱オムツ外しを試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の水分にも工夫を行い(黒糖湯、食物繊維)改善に努めている。自家製のヨーグルトをつくり毎朝工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日入浴としているが要望に応じて対応している浴槽もあり希望者には入浴剤を使用しリラックスできるよう対応している。(同性介助を行っている)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	多くの入居者が午睡されているが、夜間の安眠につなげる様にドライブや趣味活動の参加を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬事情報つづりを準備して職員がいつでも確認、共有できるようにしている。誤薬がないように服薬は職員同士で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	葉野菜や自分の洗濯物を干したり、たたんだりしている。無理強いはない。		

沖縄県(東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中で要望があればドライブや自宅へ行くなどしている。地域交流会ではなつかしい人との面談もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先でのおやつ代として家族さんから(千円～三千元)預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話が設置されており職員が支援しながら会話を楽しんだり面会を楽しみにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアなどの共用空間には、ソファが設置され利用者同士でコミュニケーションが自由にとれる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・椅子が設置されちるので、入居者が好きな場所でくつろげるようになっていく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には落ち着いていられる様に家で使用していた家具を持ち込んでもらうように家族へ協力してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場・トイレなど目印をつけてわかりやすくしている。		